



「乳用牛畑牧草自給状況の可視化」について

分析の目的

全国的な政策課題である「飼料自給率の向上」への取組にあたり、2020年農林業センサス結果を使用して、道内各地域（市町村別）の「牧草の栽培状況」や「牛の飼養状況」等の特徴を明らかにすることを目的としました。

分析手法

（1）使用データ（2020年農林業センサス結果）

- ・乳用牛飼養頭数、肉用牛（肥育牛を除く）飼養頭数
- ・乳用牛飼養経営体数
- ・畑のうち牧草専用地面積（以下「畑牧草専用地面積」という）

（2）分析指標の推計方法

- ①畑牧草専用地面積（乳用牛）：経営体ごとに、乳用牛及び肉用牛（肥育牛を除く）の飼養頭数割合に応じて畑牧草専用地面積を按分し、乳用牛該当面積を積み上げて推計（組替集計）
- ②乳用牛1頭当たり畑牧草専用地面積：畑牧草専用地面積（乳用牛）を乳用牛飼養頭数で除して推計
- ③乳用牛1経営体当たり飼養頭数：乳用牛飼養頭数を乳用牛飼養経営体数で除して推計

（3）分析指標の可視化

- ・（2）により推計した結果等について、地理情報ソフト（QGIS）により市町村別に可視化
- ・（2）の①と②の重ね合わせにより、「【乳用牛】畑牧草専用地面積及び1頭当たり畑牧草専用地面積」を作成

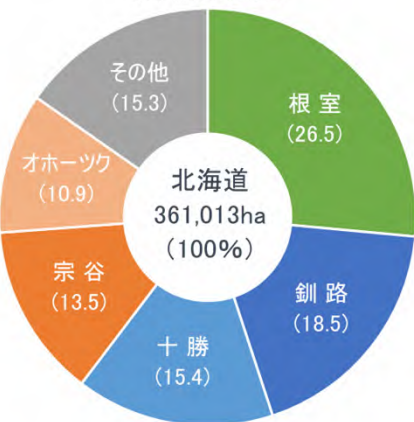
分析結果の概要

- ・乳用牛飼養頭数は、十勝、根釧、オホーツク及び宗谷地域の市町村に多く、これに連動して同地域では畑牧草専用地面積（乳用牛）も多く分布する傾向にあります。
- ・乳用牛1頭当たり畑牧草専用地面積は、上記地域のうち、根釧、宗谷地域の市町村ではおおむね0.5ha以上ですが、十勝及びオホーツク地域の多くの市町村ではおおむね0.3ha以下となっています。
- ・一般的に乳用牛1頭に必要な牧草面積は0.4～0.5haとされていますが、根釧及び宗谷地域のように十分な牧草を生産できる地域がある一方、不足している地域もあり、道内における牧草の生産状況には地域間格差があることが明らかとなりました。
なお、道内の各地域間では自給牧草の需給調整が行われ、余剰地域から不足地域への供給を通じて、北海道全体では牧草の自給率は高い水準に保たれていることが推察されます（第8次北海道酪農・肉用牛近代化計画（令和3年3月 北海道）に基づく試算では、牧草等の粗飼料の自給率は9割以上）。

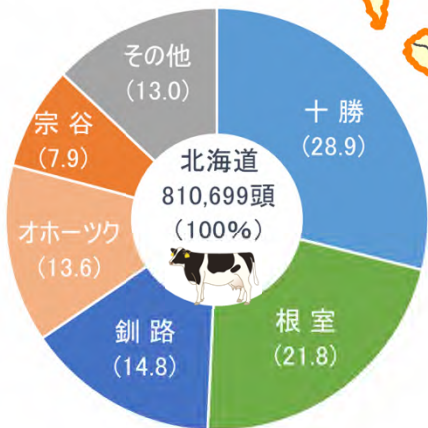


【乳用牛】畑牧草専用地面積及び1頭当たり畑牧草専用地面積の分布状況

乳用牛畑牧草専用地面積の振興局別割合



乳用牛飼養頭数の振興局別割合

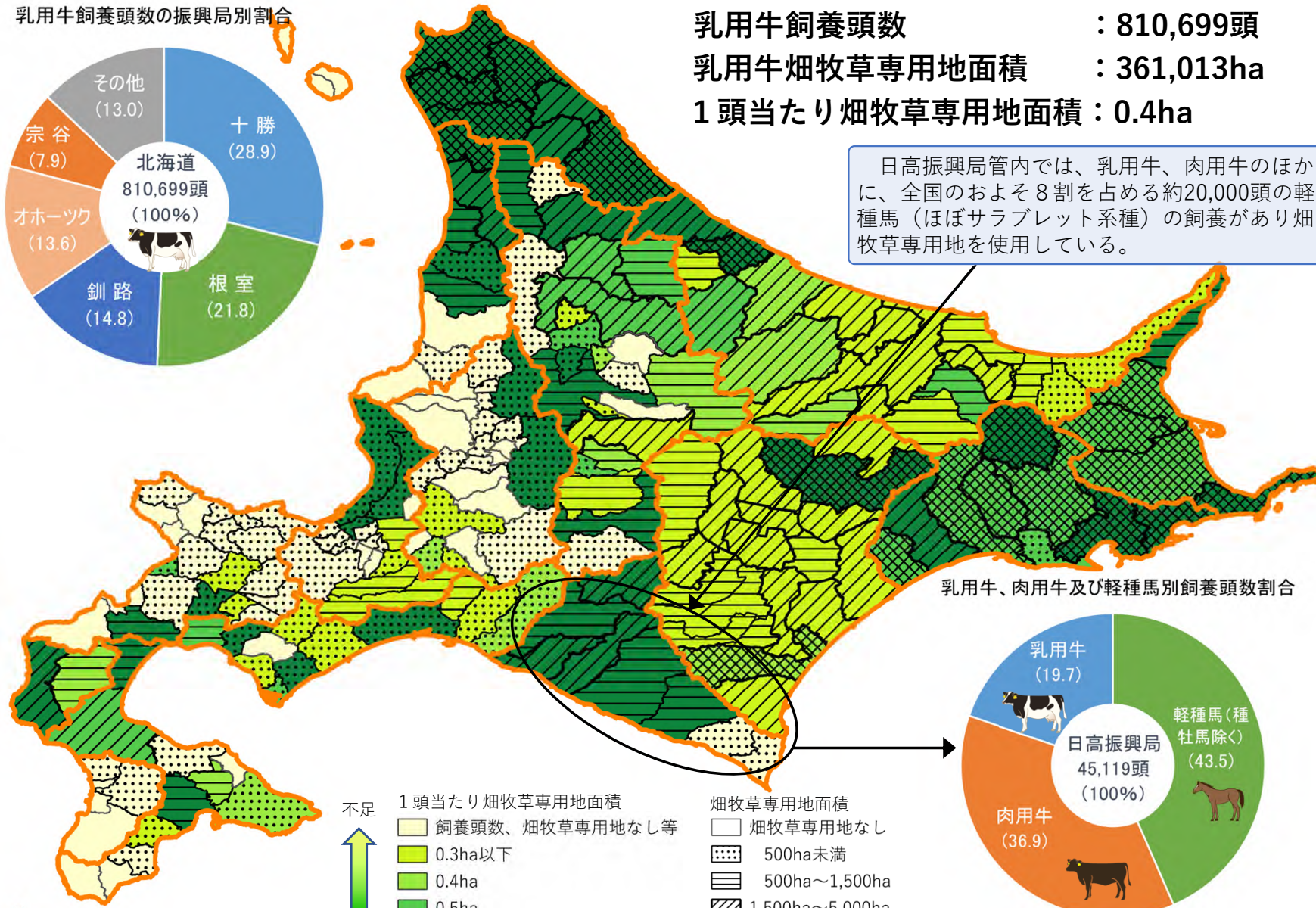
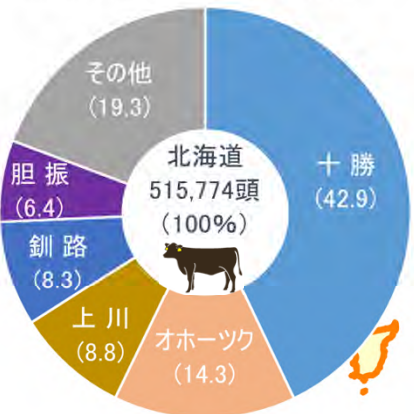


乳用牛飼養頭数 : 810,699頭
 乳用牛畑牧草専用地面積 : 361,013ha
 1頭当たり畑牧草専用地面積 : 0.4ha

日高振興局管内では、乳用牛、肉用牛のほかに、全国のおよそ8割を占める約20,000頭の軽種馬（ほぼサラブレッド系種）の飼養があり畑牧草専用地を使用している。

注：畑牧草専用地面積（乳用牛）は、経営体ごとの畑牧草専用地面積を乳用牛と肉用牛（肥育牛を除く）の飼養頭数割合によりそれぞれの利用面積として配分した後に市町村別に集計した。

肉用牛飼養頭数の振興局別割合



不足
↑
↓
充足

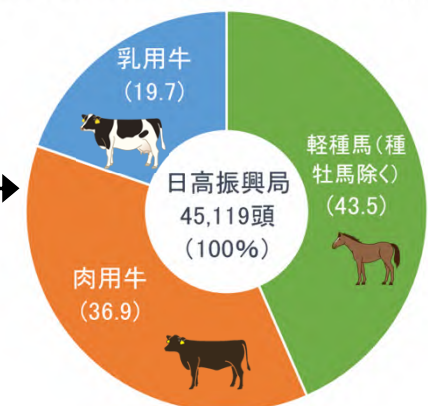
1頭当たり畑牧草専用地面積

- 飼養頭数、畑牧草専用地なし等
- 0.3ha以下
- 0.4ha
- 0.5ha
- 0.6ha以上

畑牧草専用地面積

- 畑牧草専用地なし
- 500ha未満
- 500ha～1,500ha
- 1,500ha～5,000ha
- 5,000ha以上

乳用牛、肉用牛及び軽種馬別飼養頭数割合



資料：「2020年農林業センサス」

注：「飼養頭数、畑牧草専用地なし等」階層には、乳用牛飼養頭数、畑牧草専用地面積秘匿市町村を含む。

注：「畑牧草専用地なし」階層には、調査結果秘匿市町村を含む。

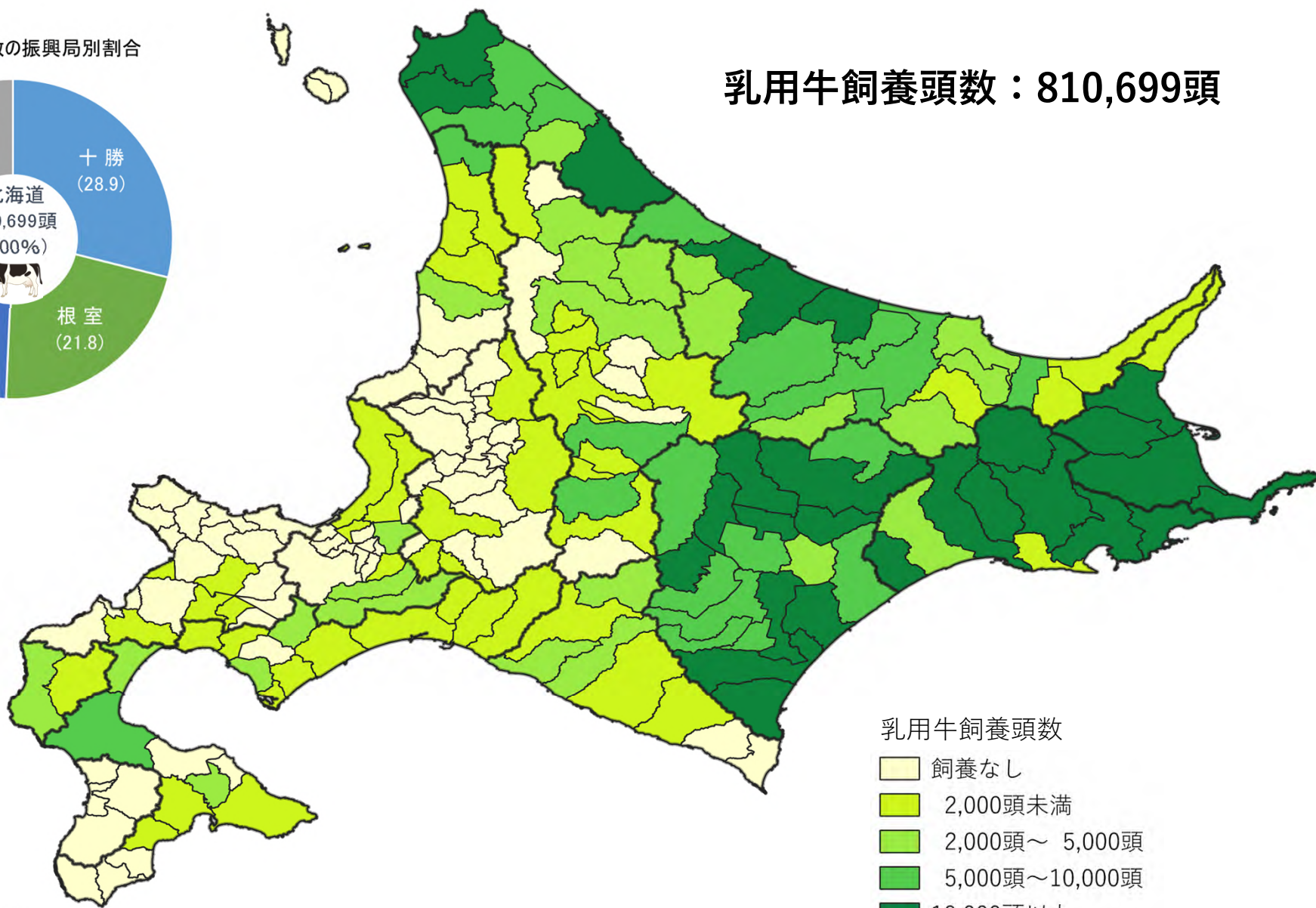
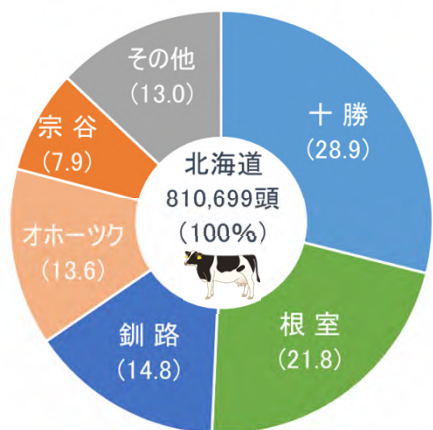
資料：（公団）ジャパンスタッドブック・インターナショナル・（公社）日本軽種馬協会「軽種馬統計」
 注：軽種馬飼養頭数は、繁殖用牝馬＋育成馬（当歳）＋育成馬（1歳）で算出（育成馬（1歳）については、前年の生産馬に0.95を乗じた推定頭数。）。



【乳用牛】飼養頭数の分布状況

乳用牛飼養頭数：810,699頭

乳用牛飼養頭数の振興局別割合



乳用牛飼養頭数

- 飼養なし
- 2,000頭未満
- 2,000頭～ 5,000頭
- 5,000頭～10,000頭
- 10,000頭以上

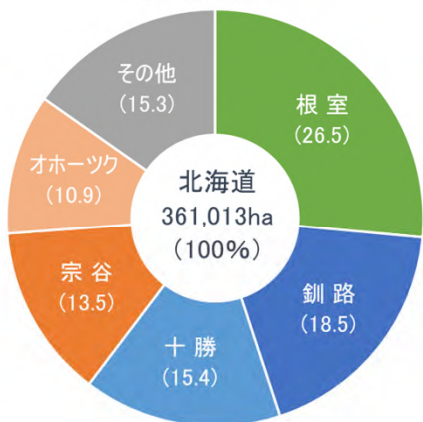
資料：「2020年農林業センサス」

注：「飼養なし」階層には、調査結果秘匿市町村を含む。



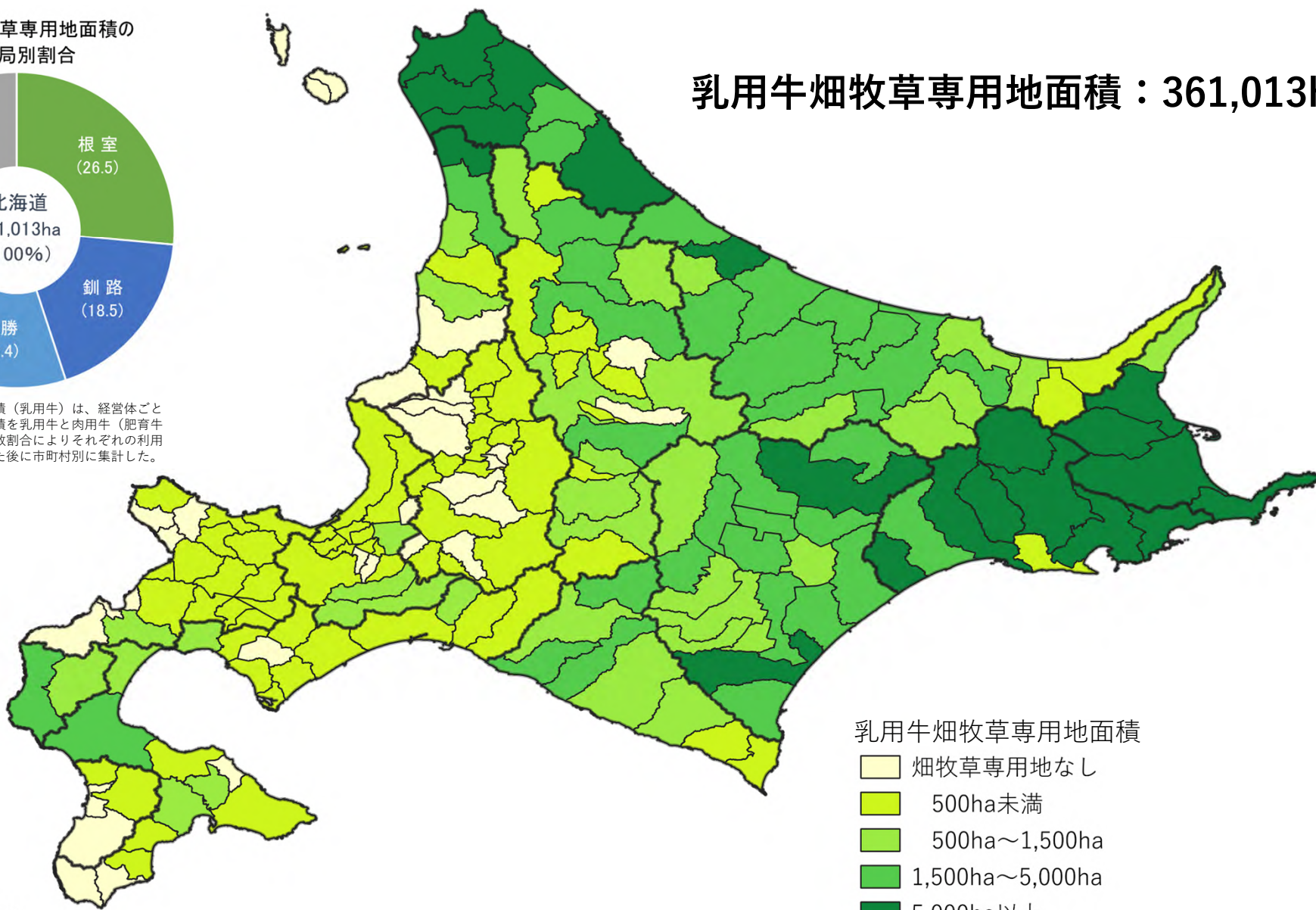
【乳用牛】畑牧草専用地面積の分布状況

乳用牛畑牧草専用地面積の
振興局別割合



注：畑牧草専用地面積（乳用牛）は、経営体ごとの畑牧草専用地面積を乳用牛と肉用牛（肥育牛を除く）の飼養頭数割合によりそれぞれの利用面積として配分した後各市町村別に集計した。

乳用牛畑牧草専用地面積：361,013ha



乳用牛畑牧草専用地面積

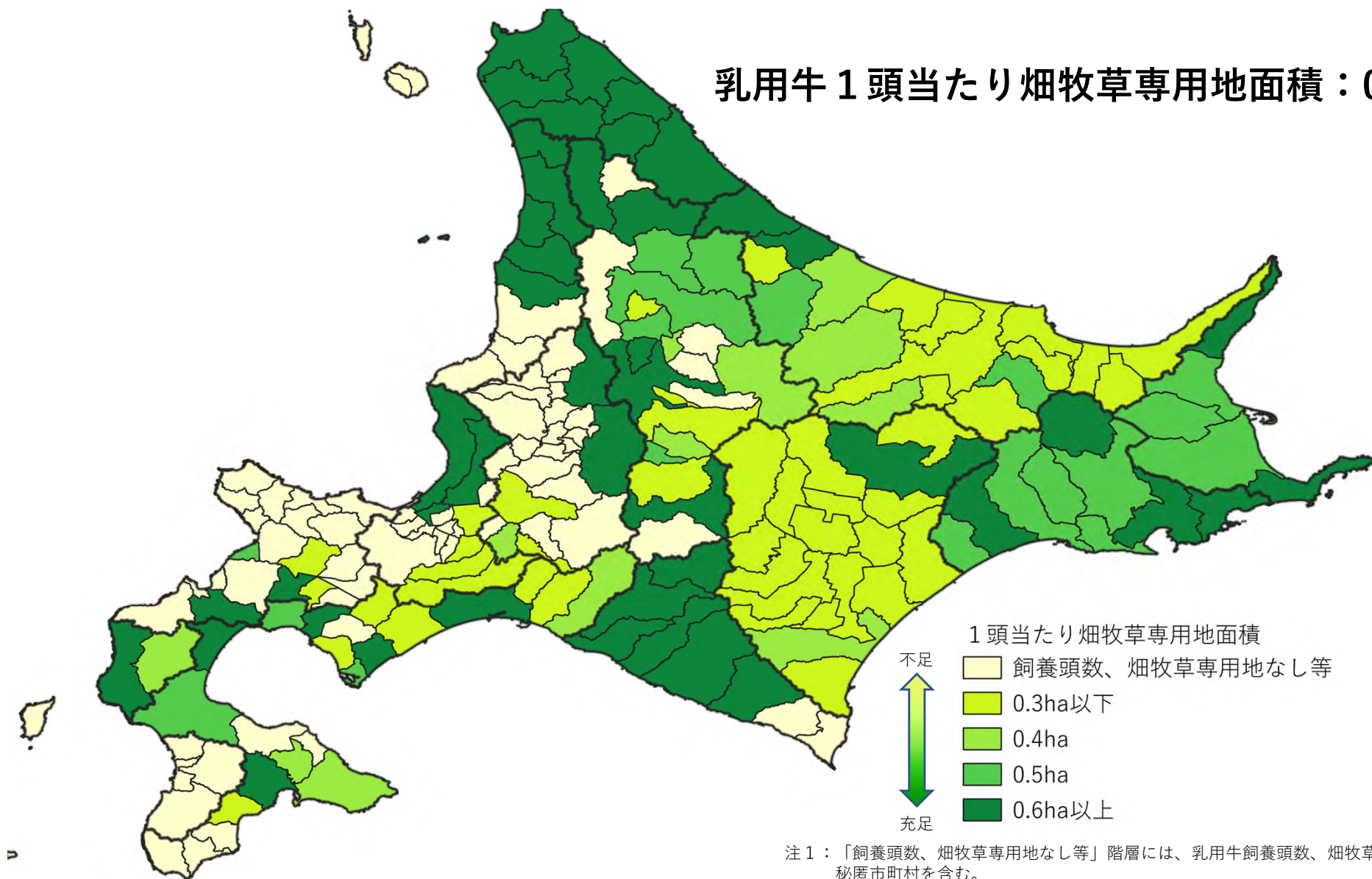
- 畑牧草専用地なし
- 500ha未満
- 500ha～1,500ha
- 1,500ha～5,000ha
- 5,000ha以上

注：「畑牧草専用地なし」階層には、調査結果秘匿市町村を含む。



【乳用牛】 1頭当たり畑牧草専用地面積の分布状況

乳用牛 1頭当たり畑牧草専用地面積：0.4ha



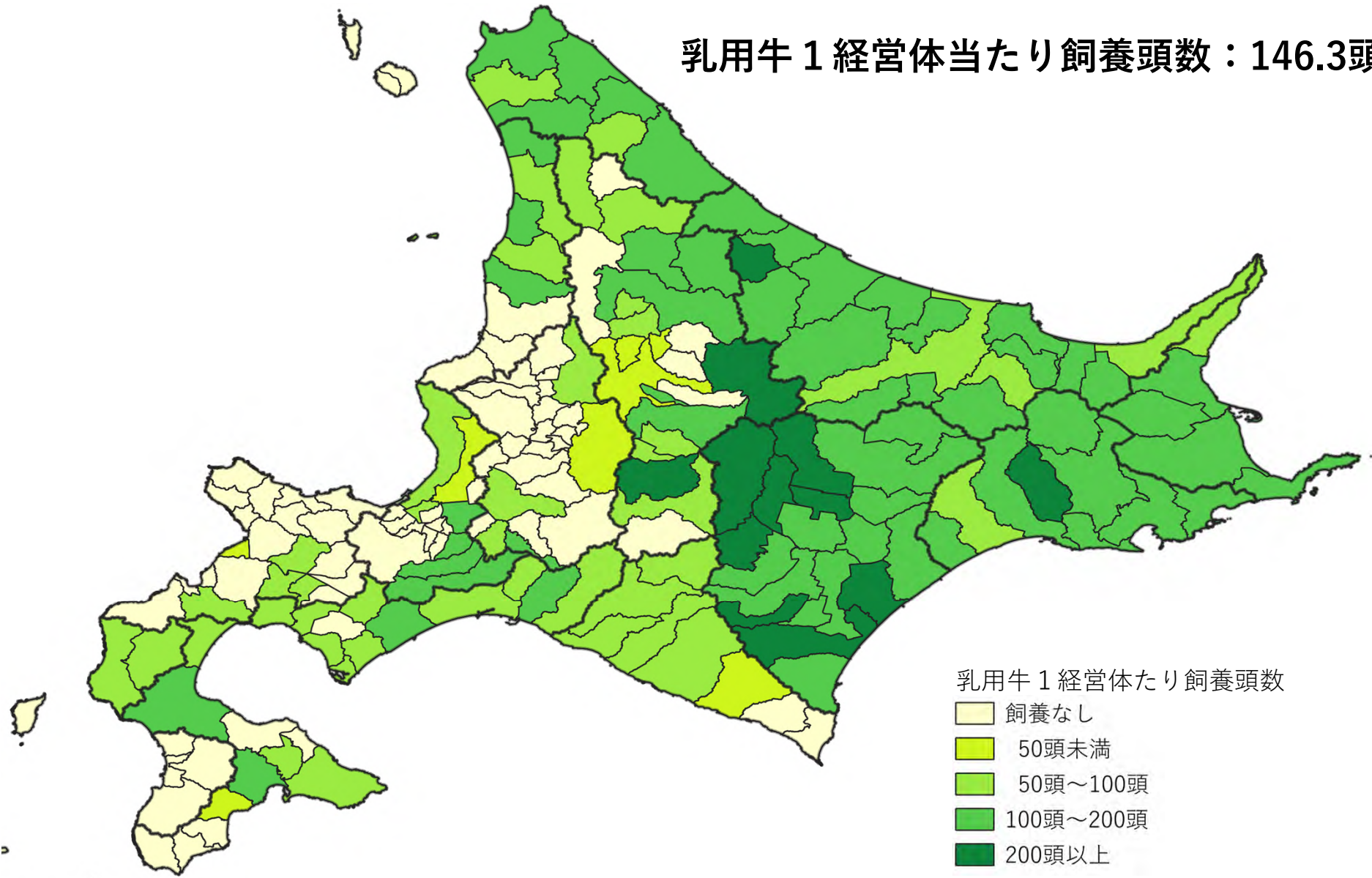
注1：「飼養頭数、畑牧草専用地なし等」階層には、乳用牛飼養頭数、畑牧草専用地面積
秘匿市町村を含む。

注2：畑牧草専用地面積（乳用牛）は、経営体ごとの畑牧草専用地面積を乳用牛と肉用牛
（肥育牛を除く）の飼養頭数割合によりそれぞれの利用面積として配分した後に市町
村別に集計した。



【乳用牛】 1 経営体当たり飼養頭数の分布状況

乳用牛 1 経営体当たり飼養頭数：146.3頭



注：「飼養頭数なし」階層には、乳用牛飼養頭数
秘匿市町村を含む。